



研究テーマ

1 食用ハスの根茎肥大に関する研究

2 植物工場におけるツルムラサキ栽培に関する研究



増田 順一郎

ますだ じゅんいちろう
農学部
植物生産環境科学科

准教授

キーワード

食用ハス、ツルムラサキ、
栽培環境、生理生態、栽培
、育種

特許情報・
共同研究・
応用分野など

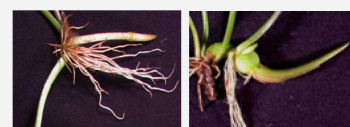
応用分野など
高糖度果実を産生する単為
結果性植物及びその作出方
法

研究概要

食用ハスやツルムラサキなど野菜を材料にして、野菜の生理生態的特性について解明し、その特性を基に、栽培技術の開発を行っています。また、野菜の育種にも取り組んでいます

1 食用ハスの根茎肥大に関する研究

食用ハス(レンコン)は、日本で古くから栽培されてきた作物であり、その肥大した根茎は、食用として利用されるとともに次年度の繁殖用にも用いられます。しかしながら、食用ハスの1株あたりの生育面積が広い(約40m²)ことや湛水土壌中に生育する根茎の生育調査には多大な労力が必要であることから、本植物の根茎肥大要因などの生理生態的特性に関する研究は進んでいません。そこで、食用ハスにおける根茎の伸長・肥大制御メカニズムの解明について研究を行っています。



長日条件 短日条件
図. 異なる日長条件下における根茎の生育

2 植物工場におけるツルムラサキ栽培に関する研究

完全制御型植物工場での栽培は、光、温度、湿度、二酸化炭素濃度、培養液などの環境条件が好適に制御されるため、季節に関係なく安定した収量を得られることや無農薬で栽培(病気の発生がない)することが可能です。ツルムラサキは、機能性成分を有する高付加価値野菜として植物工場での栽培が注目されていますが、栽培技術は確立されていません。そこで、ツルムラサキの生理生態的特性に基づいた栽培技術の開発を行っています。



図. 異なる光質におけるツルムラサキ栽培

ホームページ

野菜・花き研究室

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/agrenv/staff.html#staff3>

技術相談に応じられる関連分野

- ・ 野菜の品種改良
- ・ 野菜の生理生態的特性に基づいた栽培技術の開発

メッセージ

- ・ 共同研究の希望テーマ：野菜の品種改良
- ・ 新品種育成のニーズがあれば、ぜひ、連絡ください。
- ・ 生理生態的特性に基づいた栽培技術開発のニーズがあれば、ぜひ、連絡ください。